|  |
| --- |
| 中小企業の動き（2020年７～９月期） |

「中小企業景況調査」（中小企業庁･独立行政法人中小企業基盤整備機構）によると、全国における2020年７～９月期の中小企業（全産業）の業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）は－34.1で、前期より30.0ポイント増加し、７期ぶりに上昇した（図１）。

業種別にみると、製造業は－40.8（前期より25.1ポイント増）となり、９期ぶりに上昇した。非製造業は－32.1（前期より31.4ポイント増）と７期ぶりに上昇した。非製造業のＤＩの上昇幅が製造業より大きかった。

非製造業を業種別にみると、全業種でＤＩが上昇した（図２）。上昇幅は、４～６月期に減少幅が最も大きかった「サービス業」が39.5ポイント増と最も上昇した。

経営上の問題点は、「需要の停滞」がいずれの業種にとっても依然として１位の課題であるが、その割合も４～６期よりわずかに減少した（図３）。一方、「製造業」では、「生産設備の不足・老朽化」、「建設業」と「サービス業」では、「従業員の確保難」の割合が増加するなど、４～６月期から景況の持ち直しを反映した結果となった。

2020年10～12月期の業況判断ＤＩ（全産業）は、－35.8で、今期より1.7ポイント悪化の見通しとなっている。

図１　中小企業の業況判断ＤＩの推移



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第161回中小企業景況調査（2020年7—9月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図２　非製造業の業種別の業況判断ＤＩの動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第161回中小企業景況調査（2020年7—9月期）」

図３　経営上の問題点（各業種３位まで）の動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第161回中小企業景況調査（2020年7-9月期）